

令和3年度 第2回山形県保健医療推進協議会の議事概要

1 日 時 令和4年1月6日（木）13:30～14:40

2 場 所 WEB会議(県庁1002会議室)

3 協 議

(1) 第7次山形県保健医療計画の中間見直し（案）について 《資料1-1～4》

○ いただいた主な御意見等

- ・ 資料1-2及び資料1-4に記載の救急現場から医療機関への心電図伝送システムの導入について、喜ばしいことと思う。具体的な予算措置状況について教えていただきたい。

→（事務局）

消防本部や病院が心電図伝送システムを導入する際の補助制度創設に向けて、令和4年度当初予算において要求しているところ。（補助率2/3）

- ・ 資料1-4に介護職員の魅力を発信する「KAiGO PRiDE プロジェクト」の推進について記載があるが、現時点での状況等を教えていただきたい。

→（事務局）

KAiGO PRiDE プロジェクトは国のパイロット事業として令和元年7月に熊本県でスタートしたもので、日本の介護に対する評価が低いためクリエイティブの力で介護のイメージアップを図ることを目的とする。

本県での活動としては、令和2年2月に映像クリエイターのマンジョット・ベディ氏と日本介護福祉会元会長とトークセッション・写真展を実施。加えて、令和3年5月にはパネル展示を実施したところ。令和4年度事業についてはこれから検討していくが、他自治体等とも連携した取組みを実施していきたいと考えている。

- ・ 在宅医療はまだまだ縦割りであるため、縦割りを繋ぐような取組みができたらいいのではないかと。難病患者・医療的ケア児・がん患者の横のつながりを持たせるプロジェクトが必要ではないかと。

本県で在宅医療を進めていくには遠隔診療、即ちオンライン診療が鍵となってくると思う。新型コロナで事業推進が難しい状況と思うが、もう少し前に打ち出していく必要があるのではないかと。

→（事務局）

医療的ケア児の在宅医療に取り組む医師が少ない状況であるため、成人の在宅医療に取り組む医師に医療的ケア児も診ていただけるよう、数年前から山形県医師会と連携し事業を実施しているところ。また、移行期支援についても新型コロナの影響で思うように進められていない状況ではあるが、引き続き医師会、その他関係者と議論を進めていく。

→ (事務局)

新型コロナ関連で在宅医療におけるオンライン診療への支援経費を今年度から予算化している。来年度に向けては在宅医療だけでなく、へき地診療におけるオンライン診療への支援について予算要求している。このようなところを始まりとしてオンライン診療を推進していけたらと考えている。

- ・ 資料1-2(2) 目指すべき方向と施策に、「健康づくりの関係者と連携し」との記載があるが、ここに学校関係者は含まれているか。含まれているとすれば、保健体育教諭、養護教諭、家庭科教諭への情報提供をお願いしたい。

→ (事務局)

学校関係者も含めて考えている。パンフレットを作成し教育庁と連携し、取組んでいきたい。

(2) 地域医療構想の進捗状況と今後の進め方について <<資料2-1~8>>

=意見等なし=

(3) 地域医療介護総合確保基金に係る令和3年度事業概要及び令和2年度実施事業の事後評価について <<資料3-1~4>>

○ いただいた主な御意見等

- ・ 介護職員の人材育成については、新型コロナの影響で対面での実施が難しいため、ICTを活用した実効性のある事業を実施していきたいと考えている。
地域医療介護総合確保基金を活用した事業で介護ロボットの導入等のICT支援事業を実施いただいているおかげで、各事業所にICT機器が導入出来ていることは非常にありがたいことと感じている。今後、各事業所において新型コロナを踏まえた新しい介護サービスをどのように実施していくか考えていく必要がある。

- ・ 資料3-2のICTを活用した地域医療ネットワーク基盤の整備について、医療情報ネットワークの閲覧は医療機関の医師等の閲覧にとどまっているが、訪問看護ステーションの訪問看護師も閲覧できる環境が必要と感じているがいかがか。

→ (事務局)

地域の実情があり難しいところがあるが、引き続き検討してまいりたい。

- ・ 最近、医師だけでなく看護師の高齢化により夜勤体制の確保が難しくなっている耳にする。地域ごと、病院ごとの年齢構成を配慮した医療従事者の配置把握が必要となってくるのではないか。

→ (事務局)

医師、看護師の高齢化が徐々に課題になってきていると感じている。医療従事者の現状の年齢構成等を把握することは大切と考えるため、県医師会、県看護協会と連携し検討していきたい。

以上